



東京都渋谷区代々木2丁目23番1号  
ニューステイトメナー833号室 (〒151-0053)  
Tel 03-6240-2300 Fax 03-6240-2301  
E-mail : info@asset-adv.co.jp  
ホームページ : <http://www.asset-adv.co.jp/>



アセットアドバイザー 検索

# AA通信

2011年(平成23年)11月1日 第 29 号

ともにがんばろう！ ニッポン！ 被災地の一日も早い復興を願っております。

## ☆☆☆ 通信トピックス① ☆☆☆

～なぜ、この景況なのに円高なのか？～

10月31日の夕刊に円売り介入が実施されたと報道されました。31日の早朝には1ドル＝75円32銭の史上最高値を更新したタイミングでした。結果、円は1ドル＝79円台まで急落しました。円相場は10月25日から27日にかけて3日連続で最高値を更新しており、いつ円売り介入をしてもおかしくない状態でした。7.5兆円規模の最大の介入で、財務大臣も「納得いくまで介入したい」と継続的に介入する旨の発言もしています。

先月27日に母校の経済人クラブの勉強会で、野村證券の池田雄之輔氏による為替に関する講義を受けました。特に「なぜ、日本の景気が悪いときに、円高になるのか？」について、わかり易く解説してくださいましたのでご紹介します。

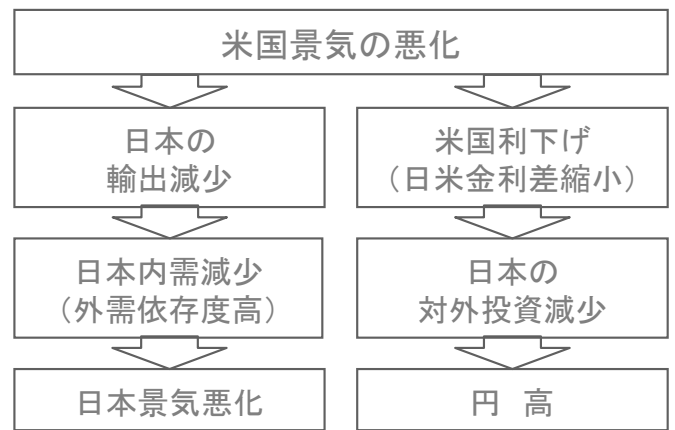
その理由は以下の3つにあるようです。

- ①日本の景気がアメリカに依存していること。
- ②日本がゼロ金利であること。
- ③ドル円相場が金利差で連動していること。

アメリカがくしゃみをすると日本が風邪をひく、と言われて久しいですが、今も米国経済への依存が高まっていて、米国のGDPが1%下がると日本では0.6%下がるそうです。日本ではアジア向け輸出が伸びているようでも、部品を輸出しアジアで組み立て、アメリカがこれを購入するという構造です。

そして、日本はゼロ金利ですが、アメリカは景気が悪くなれば金利を下げます。アメリカはリーマンショック前に5.25%あった金利を、現在は0%台まで下げています。また、現在のドル円相場は金利差で連動(金利が上がる通貨が買われて、金利が下がる通貨が売られる。)しているため、アメリカの金利が下がり、日本が金利を下げられない状態であるために、円高になる構造だそうです。

昔は通貨の景気が強い国の通過は高く、国の実力の指標であるとも言われましたが、2005年以降は金利差に為替が連動し、短期の為替取引の増加と、自動為替取引の依存が増加したことも重なって、「米国景気の悪化⇒日本景気の悪化」「米国景気悪化⇒米国利下げ⇒円高」という関係が出来上がっているとの解説でした。こう聞くと最大規模の介入も、その効果に疑問を感じました。



## ☆☆☆ 通信トピックス② ☆☆☆

～ 映画「エンディングノート」を観てきました。～

この映画は、父親が余命半年と宣告されてから亡くなるまでの姿を、実の娘が映画にしたものです。主人公の父は高度成長時代の熱血営業マン、企業を退職し、これから自分の人生を楽しもうという矢先にガンを宣告されます。余命半年。企業戦士として「段取り命」を銘打った彼は、自分の人生の最後に相応しい段取りをします。それがエンディングノートです。画面から病気の進行も伝わってきますし、死の間際の様子も映し出されます。しかし、娘の撮影とナレーションと編集で創られた映像は、どこか冷静で、逆に主人公の

ありのままの姿が表現されていました。

「何故、教会で葬儀をすると決めたの？」と娘に問われ、「オフレコ(カメラを止める)なら答える」と返す姿。病床で矢継ぎ早に葬儀の段取りを質問する長男に、「わからなくなったら携帯に電話下さい。」と言う姿。妻に心から感謝をする姿、思いがけず孫に会えて涙ながらに喜ぶ姿、母親に電話で感謝を伝える姿。

笑いあり、涙ありの映画でしたが、何より主人公が全力で生きる姿に大きな感動がありました。映画の終了と同時に場内で拍手が沸き、主人公への想いで会場がひとつになりました。残念ながら上映している映画館が少ないですが、皆さまも是非ご覧ください。

☆☆☆ セミナー付き無料相談会の開催について ☆☆☆ (株)アセット・アドバイザーでは、問題事例を含む相続関連のミニセミナーの中から、お客様の個別問題を確認する方法で、無料相談会を実施しています。「土地建物」や「相続対策」でお困りの方、是非、ご活用下さい。第3水曜日の夜(午後6時以降)と、第3土曜日の日中(午前10時から午後4時迄)実施します。次回は11月16日と19日。ご予約のうえお越し下さい。

